

みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞

# 信毎こども記者ニュース

発行/信濃毎日新聞地域活動部 〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.8

## 上田城新聞、作ったよ

### こども記者、写真教室に集結!

信毎こども記者クラブは、上田市の上田城跡公園で16日、初めての「こども記者写真教室」を開きました。参加した小学1~5年生16人は、真田神社や上田市立博物館、観光会館などを回り、興味を持ったものをデジタルカメラで撮影。地元の人たちに話を聞いて記事を書きました。写真の撮り方は、信毎の増田今雄写真記者がアドバイス。上田城の歴史などは博物

館学芸員の塩崎幸夫さんが教えてくれました。教室の最後に、ひとりひとり「みんなの上田城新聞」を作って取材したニュースをまとめました。会場にかけつけたな一のちゃん号で印刷し、まさに速報新聞が完成。みなさんも関心があることを取材してみてください。



上田城跡公園を歩いて、気になるものをたくさん撮影したよ  
上田市立博物館の塩崎さんが、上田城について解説してくれました



### 増田今雄記者が教える 写真の撮り方のポイント!

- 1 「写真の力」はすごい! パッと見ただけでいろいろ分かる。100行の記事より1枚の写真の方がよく伝わることだってあるよ。
- 2 あれ?おもしろいぞ!と思ったら写真に撮ろう! 人を撮る時は「いいですか?」と聞いてね。
- 3 悩まないで、まず1枚写す。その後で、右や左、しゃがんだり上から見たり、近づいたり離れたりして、写し方を工夫してみよう!
- 4 撮ったことを説明する記事も必要。くわしく知っている人を見つけて取材しよう!
- 5 記事の内容は正確に書こうね。

こども記者のみなさんから、「真田石の重さはどれくらいですか?」など、思いもよらない質問をされました。私が知らないような、おもしろいことをいろいろ見つけてもらって、私も勉強になりました。楽しかったです。



### こども記者クラブができました!

こども記者ってなににするの? \*原則として小学4~6年生対象

- 1 自分が興味あることを取材して、記事を書いてもらいます。毎週日曜日の「信毎こども新聞」のページの「こども記者」コーナーで紹介します。
- 2 クラブの今年のテーマは「知りたい、会いたい、65年前の子どもたち」です。戦争中、こどもだったおじいちゃんやおばあちゃんが、なにを食べて、どんな遊びをしていたのか、話を聞いて、記事を書いてみよう。

こども記者クラブのメンバーになるには?

- 1 どちらか、こども記者クラブに登録する。取材することは、後で決めてOK!
- 2 記事(400字くらい)を書いて、信毎に送る。原稿用紙を送るので、連絡してね。
- 3 「こども取材教室」(または写真教室)に参加する。

こども記者クラブの問い合わせ、申し込み、記事のあて先  
信濃毎日新聞地域活動部「こども記者クラブ」係(〒380-8546長野市南県町657 電話026-236-3110 ファクス026-236-3193)。名前(よみがな・保護者名も)、住所、電話番号、小学校名と学年を書いてください。

次の取材教室は「マナブと歌でつなぐ65年」  
2月20日(土) 13:30~16:00 会場=信毎長野本社 定員30人 参加無料  
戦争のことを歌っているシンガー・ソングライターの清水まなぶ(マナブ)さん取材します。  
※「こども取材教室」係と書いて、こども記者クラブと同じところへ同じように申し込んでください。

### みんな最初は一年生

ここだけのヒミツ! ベテラン記者の失敗談

取材は「まず現場で消防車を見て大慌て」

私が信濃毎日新聞に入社したのは1977年。新聞記者として最初の持ち場は、松本警察署や地方裁判所松本支部を取材する「サツ回り(司法担当)」でした。

事故や火事の取材は「まず現場へです。それから、パトカーや救急車、消防車のサイレンを耳にしたら、警察や消防に現場がどこかを聞いて駆けつけます。寝ている、遠くのサイレンが目覚めるほど敏感になります。

雨がひどく降っている夜、取材を終えて松本本社に帰る途中でした。交差点で信号待ちしていると、赤色灯を回転させて消防ポンプ車がすれ違って行きます。エッ、火事? 災害? ついて行けば現場だ! 信号が変わるのを待ち、交差点の少し先でリターンして、消防車を追いかけてました。

赤色灯はずいぶん先です。ついアクセルを踏みすぎました。下り坂のカーブ、雨で濡れた路面で横滑りし、縁石に衝突。当時、携帯電話はなく、公衆電話を探して消防署に電話すると火事、災害の出動はなし。水防警戒の巡視でした。そういうサイレンは鳴らしてはなかった。

なんという慌て者。消防車とすれ違う場面から、今も映像が鮮やかによみがえります。